

コープの

遺品整理 空家整理



サービスのこと



倉庫の中



サーフボード

廃棄の際のやっかいもの
(マットレス)も

釣り具は海外で人気なのだとか



大型家具

ぬいぐるみ

残された親族が困らないように、生前に身辺整理をして遺品をできるだけ少なくする断捨離。もとは不要なものを絶ち、ものへの執着心をなくして身軽で快適な生活を手に入れようとするヨガの考え方です。しかし、人は生きている限り衣服を着てお買い物に出かけ、食事を取り、テレビや音楽を楽しむものです。そしてこれらの生活に必要な生活用品は、簡単に断捨離できるものではありません。万一、その家に住まう人がいなくなった場合、親族はそうした残された家具や家電、衣類や雑貨品などの遺品を整理・処分しなければなりません。近ければ週末ごとに通って少しずつ作業することもできますが、遠く離れた他府県などの場合は難しいのが現実です。そこでならコープが提携している遺品整理などの「おかたづけサービス」の専門会社株式会社リリーフの赤澤社長に遺品整理の実情をお聞きしました。



株式会社リリーフ
代表取締役社長 赤澤知宣さん

ものは分別しておきます。使う予定のあるもの、思い出の品、資産価値のあるものなどです。そして、その内容に基づく見積りを見て納得したらあとは、おまかせです。作業当日の立ち合いができない場合は、思わぬ場所から金品や有価物が出てきたりすると電話、メールが届きます。有価物などは処分をまかせて、料金と相殺することも可能です。

道路が狭くてトラックが入らないようなところでも作業は可能なのでしょうか。「道路幅は関係ありません。通常は1日で作業が終わりますが、2日ほどかかることがあります」とのこと。

さて、持ち出された家具や食器、衣料品、生活用品のうち不用品については、一般廃棄物の収集運搬許可業者を通じて各市町村のルールに沿って処理されます。まだ使用に耐えられる品の多くは、「もったいない」のでリユース品として海外に送られて、再



大型コンテナがいっぱいになると海外へ

奈良から遠く離れた埼玉県東松山市の実家で遺品整理をされた経験のあるNさんは、何度も帰郷してのべ10日以上もかけて処分したそうですが、市の分別に従ってレンタカーで何度も処分場に持っていかねばならず、かなり疲弊したとのこと。会社勤め現役世代なら長期の休暇がとりづらく、さりとていつまでも空き家を放置するに忍びないという場合はやはり専門会社にたのまざるを得ません。リリーフは全国に22の拠点をもっている。遠方であっても心配いりません。では、どのようなものを整理してもらえるのでしょうか。「弊社では基本的に処分できない品はありません」と赤澤社長。たす、ベッド(マットレス)、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどの大型家具・家電はもちろん、食器や調理備品、衣料品、風呂トイレの衛生用品、雑誌や書籍、釣具やゴルフクラブなどなんでも可能だそうです。ピアノはどうですか?「重機を使う場合別途料金が発生しますが可能です」。大型の農機具なども大丈夫とのこと。まさに処分できないものはないのだそうです。

依頼に際しては、できればまずは実際にその家でのように整理したいのか擦り合わせします。ここで処分したくないが活躍することになります。家電については「家電リサイクル法」に基づいて処分されます。ただし、農機などは処理のための別途契約が必要になることもあります。それではみなさん気になる料金です。あくまで平均的な概算ですが3LDKのマンションですと20万円前後、1戸建てのお宅で30万円前後とのこと。ピアノや農機の処分、庭木の伐採などは別途費用がかかるそうです。

少し古いですが、総務省による平成30年の統計調査報告では、全国の空き家率は13.6%です。故人と生活を共にしてきた家屋や思い出の品々ですから、親族で片付けるのが理想でしょうが、そうしたこともできないという方に代わっておこなうおかたづけサービス。困っていたという方は一度見積もりを依頼してもよいかもしれませんね。お電話の際に、「ならコープの組合員です」と伝えてください。

写真 広報室

Relief

株式会社
リリーフ

0120-112-089
(土日祝対応)